

(松本委員)

5点質問があります。1点目、資料8ページ、社会教育課の文化財保存・活用事業について。えんぶり、三社大祭については市より各団体に多くの協力をいただいていることは重々承知しているが、各団体から祭りを次世代の子どもたちへ伝えていく使命の重みについて伺う機会が多いこともあり、えんぶりや三社大祭を次世代に伝えていくために市教委として既に協力していることを教えてほしい。

(社会教育課長)

まず昨今の急激な少子高齢化や、令和2年から4年の新型コロナウイルスの影響で行事が中断したことにより、企業や家庭の理解が得られにくくなったり、三社大祭で太鼓を叩いていた子どもたちが卒業して経験者が誰もいなくなったりということがあり、行事への参加者減少に拍車をかけている状況が続いており、各組の方もお困りだったと思う。将来の担い手である子どもたちが減って、関係団体から困ったという話を私どもも伺っており、そのような状況も認識している。

まずはそのような声を受け、今年度、市教委では三社大祭に関しては八戸山車振興会と連携し、6月下旬から7月にかけて、市内の全小中学生に、山車組や郷土芸能団体への参加募集のチラシを配布した。その結果、各団体へ直接問い合わせがあったり、各団体へ参加希望者を紹介できたケースもあり、担い手の増加に一定の効果があつたと考えている。また、平成29年度から小学生向けの三社大祭の副読本を配布しており、現在は、毎年4年生全員に配布している。

えんぶりについては平成30年度より2月17日をえんぶりの日として、市内小中学校を休校とし、子どもたちがえんぶりに参加しやすくしたり、参加しない場合でも一斉摺りなどの行事を見る機会とできるよう、えんぶりに触れる環境を整えている。さらに当課では、えんぶりの実態を把握し後世に正確に伝えることを目的とし、令和元年度よりえんぶり調査事業を実施している。八戸地方えんぶり連合協議会に参加加盟中である39組のえんぶり組について、詳細な記録調査を行い、報告書を刊行する予定である。

市教委としては、子どもたちが祭り行事について体験や学習する機会を設けることで、郷土愛や誇りを醸成する支援をしている。また、記録調査によって文化的、学術的な史料を整備し、祭りを継承していくために教育的な支援をする方向で、今後も進めて参りたいと考えている。

(松本委員)

えんぶり事業の報告書を作成し、次世代に伝えていくのは大きな意義があると思う。

次は 13 ページ、令和 6 年度より導入予定のコミュニティ・スクールについて具体的な内容をお聞かせください。

(教育指導課長)

当市では平成 20 年度より、地域密着型教育推進事業に取り組み、学校と家庭、地域が協力する関係づくりを進めてきた。来年度導入予定のコミュニティ・スクールは、国が推奨する制度であり、当市が地域密着型教育によって積み上げてきた成果と実績をさらに充実、発展させていくものである。

コミュニティ・スクール導入による変更点は次の 3 点である。1 点目は、現在各学校に設置されている地域学校連携協議会委員の身分が地方公務員の特別職となること。2 点目は、協議会において学校運営の基本方針の承認を行なうこと。3 点目は、協議会において教職員配置の要望が可能になることである。

従いまして、大きく制度変更するものではなく、これまでの実績を踏まえつつ、これまで以上に学校と家庭、地域が連携協働し、パートナーとして共通の目標を持って取り組むことを狙いとしている。市教委ではコミュニティ・スクール導入により、地域と共にある学校づくりを進めることで、地域づくりやまちづくりにも貢献していくことを目指している。

(松本委員)

地域の意見が学校の人事に影響することがあるのか。

(教育指導課長)

教職員人事の要望が可能というのは、例えば個人的にこの先生が欲しいということではなく、学校の課題を解決するために、例えばこういう指導ができる先生方をお願いしたいというように、学校運営やまちづくりをしていくために、こういう先生が必要だということを市教委に要望できるという意味である。

(松本委員)

あの先生は嫌だから辞めさせてということに使われるのではないかとの懸念がある。そのような間違った意識を与えないためにも、コミュニティ・スクール事業について、皆さんに周知していくことが必要と思う。

(教育部長)

補足いたします。コミュニティ・スクール、実は地域密着型教育のことである。地域密着型教育を始める際、教職員の人事に関することは松本委員と同じような懸念(心配)があり、いきなり地域の方に先生を・・・という考えがあったため、教職員の人事(こういった先生が欲しいとの希望)のところを外した。ところが我々も10年近くを経て、そうではないと気がついた。それは、地域から市教委に対して、我々の地域ではこういった先生が欲しいという意見をいただくと、市教委は県教委に対して、地域からこういう声が挙がっているので、是非この学校にはこういった先生をお願いしたいという声が届けられる制度だと気がついた。決して、あの先生を変えてほしいではないということが、段々わかってきた。

もう1つは、学校運営方針は校長先生が地域の代表者に報告する、いわゆる一方通行である。しかし、コミュニティ・スクールは承認。学校が提示して皆さんに認めていただいて、それでは皆さんこれでいきましょうと。このキャッチボールを国から求められていたが、まだ地域も戸惑うだろうということで、地域密着型教育ではこちらも外していた。

八戸型コミュニティ・スクールと標榜したかったが、国からコミュニティ・スクールという言葉を使ってはいけないと言われ、地域密着型教育ということで長年進めてきた結果、定着しうまく行っていた。

うまく行っている地域密着型教育をなぜコミュニティ・スクールに変えるのかという意見があるが、変えるのではなくようやくフルスペックになると捉えていただければと思う。

あとは、現在、学校運営協議会の委員は無報酬で何の保障もなく、会議に来られる時に事故とか怪我とかされた時にも全くの自己責任である。しかし、コミュニティ・スクールが導入されれば、非常勤特別職ということで身分が公務員と同じように保障される。当然これまで以上に責務が重くなるが、学校だけでなく地域と保護者と一緒になって子どもたちのために取り組んでいくということで、発展的な移行、変わるというか拡充すると捉えていただきたい。

(松本委員)

大変よくわかりました。ありがとうございました。3点目は16ページの是川縄文の里整備事業について、今年度の進捗状況をお聞かせください。

(是川縄文館副館長)

今年度進めている内容の前に、是川縄文の里整備事業について概要を説明する。是川縄文の里整備事業は、史跡是川石器時代遺跡を史跡公園として整備し、文化観光資源として活用していく事業である。

平成29年度に策定した第1期基本計画に基づき、現在、約3000年前の縄文時代晩期の中

居ムラを再現する整備を進めている。その場に立って、縄文時代晩期当時の風景や生活の様子を体感できるような復元という事を目指している。これまでの整備状況については、史跡全体の面積は21万9000平米だが、そのうちの91%、約19万8000平米が公有化済みである。当時の様子を復元することになるので、既存で建っていた是川考古館や歴史民俗資料館などは、撤去済みである。来年度から本格的な工事に入るため、世界遺産の範囲にもなっている中居遺跡の南側の地形造成工事のための実施設計を現在進めており、3月中には出来上がる予定。

今後については、国・県の予算、補助金で整備している事業のため、その状況や市の財政状況、それから社会情勢等によって、予算措置されるか不明のため、現段階では完成予定を明言出来ないが、順調に確実に進めていきたいと思っているので、ご理解いただきたい。

(松本委員)

大変よくわかりました。4点目29ページ、博物館各種展覧会体験講座等開催事業の市民のための歴史講座について、次年度の構想をお聞かせください。市内のほかの施設でもこのような共同講座が生まれればといつも思っている。

(図書館副館長)

博物館への質問だが、来年度については、図書館150周年記念に関してのテーマのため、図書館から回答させていただく。

講座のほかにパネル展示や記念誌刊行などを予定しており、それに歴史講座も含めて、図書館150周年記念事業という形になっている。テーマについては、江戸時代や明治時代以降の「書籍」や「図書館」に関することを対象にした講師をお呼びしたいと考えている。図書館・博物館それぞれで講師を選定している状況で、各館2回ずつ、計4回の開催予定となっている。

(松本委員)

楽しみにしている。29ページの同じく博物館の開催事業で、出前授業3回とあるが、内容や対象者などをお聞かせいただきたい。

(博物館長)

出前授業の内容だが、各種学校向けに行なっているスクールプログラムの一つになる。12月以前の3回はいずれも市内の小学校への出前で、脱穀作業を通じた昔の農業体験、火縄銃など昔の道具に触れる体験、刺し子つづれの着装や水汲みによる昔の暮らしの体験を実施したものになる。なお、1月は2小学校で5件、2月は5小学校で6件、3月は特別支援学校1

件の予約が入っており、三戸郡内の学校も含まれている。基本的には学校向けの訪問になる。

(松本委員)

うちの子どもたちの学校にも脱穀の授業に来ていただいたのを思い出した。ありがとうございました。

(根城委員長)

他に委員の方々からご意見ご質問等あればお願いします。

(川守田委員)

2点質問します。1点目は、社会教育課の文化財カードについて。すでに配布終了というカードもありコレクター魂をくすぐる、とても面白い事業だと思う。八戸圏域（市町村の垣根を超えた取り組み）ということで、重要な事業だと感じている。文化財バトルカードやホームページの作成等を通して、圏域間の連携がどのように進んだのか、またどのような効果があったのかを伺いたい。

(社会教育課長)

八戸圏域連携中枢都市圏事業として、八戸市と近隣の7町村（三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町）が連携し、地域の個性を生かしながら活力ある都市圏の形成を目指して様々な事業を展開している。

今年度は市全体で79事業が行なわれており、その中で31のワーキンググループが開催され、様々な事業の推進に当たっている。そのうちの1つが文化財ワーキンググループで、各市町村の文化財担当者が集まって文化財の魅力を発信している。各市町村が対等に意見を言い、1つ新しいアイデアを出して事業を進めたワーキンググループは珍しいと思われる。効果としては、担当者間の連携がより深まり、1人1人が参加意識を持って当事業に励んでいることである。また、カードを入手するために現地へ行く必要があるが、子ども1人では行けない場所もある。そのため親子で出かける機会となり、交流が増えたという話を聞いている。さらに、一般の市民の方も近隣町村の文化財の魅力に注目し、現地へ行く足掛かりにもなったと感じている。

(川守田委員)

今のような連携交流がこれからもより盛んになることを願っている。もう1つの質問は、資料2ページの先人周知事業についてである。研究の一環で、八戸市で活躍した人の経緯を追う活動をしているが、個人所有の資料がなかなか手に入れられず、追跡がそこで止まることが生じている。資料収集が、今どのように進んでいるのかをお聞きしたい。

(社会教育課長)

先人周知事業は、八戸市にゆかりのある歴史上の先人の功績を周知し、郷土愛の醸成を図るために始めた事業で100名分のパネル作成を目標としている。現在までに96名分完成しており、今年度は3名分作成予定で、99名となる予定である。ただし、ご遺族の了承を得られないと公開できないため、明言はできない。図書館の事業紹介の中にもあったが、パネルの貸し出しを各種イベントで行い、これまで作成した方の周知を進めている。今年度、ワーキング会議をこれから2月中に開催し、どの方を先人として選定するかという作業を引き続き進めていく予定である。

(博物館長)

私は先人周知事業の立ち上げから80名くらいまで、ずっと関わってきた。社会教育課長の説明に補足すると、先人に選定されるのは、基本的には江戸の末に生まれた方から、明治、大正頃に活躍された方、例えば、北村益や奈須川光宝のような政治家である。あとは平成になって亡くられる方が出てくるので、後半ではそこを誰にするかというのを詰めながら行っていた。

資料収集は、基本的には東奥日報社の「青森県人名事典」、デーリー東北新聞社の「きたおう人物伝」を調べ、その方に関する論文や著作物があれば図書館で可能な限り調べ、それから遺族に当たる。遺族が持っている写真や手紙を全部一旦お借りして、スキャン等の二重保存をしてお返しをする。ただ、最終的にはご遺族の方に当たれるかどうかと、当たれたとしても許可を得られるかどうかという壁があるので、具体的な方のお名前を教えていただければ、対応できることもあるかと思う。

(川守田委員)

いろいろな事情があるところ進めていただいて非常にありがたい。また目標枚数が揃った時には、何かイベントを開催するとパネルも活用されるのではないかと思う。

(根城委員長)

文化財バトルカードについて、他町村はどのような活用の仕方をしているのか(例えば小学校で何かやるなど)を教えていただきたい。

(社会教育課長)

令和4年度のバトルカード作成段階から各町村で授業を行い、そこに文化財担当者が全員で赴き、一緒にワークショップを行なっている。

本年度もワークショップを7月に明治小学校で実施したほか、各町村の民俗芸能のイベントや町民文化祭などでブースを設け、担当者が全員または当番制で出張し、カードの配布や、ゲームのデモンストレーションを行った。

(根城委員長)

もう1点、コミュニティ・スクールについて。6年度から開始予定ということだが、一斉に市内全区に行うのか、出来るところから始めていくのか、教えていただきたい。

(教育指導課長)

令和6年度から市内小中学校一斉に取組を進める予定である。地域密着型教育の各学校での取り組みが十分に進んでいるので、そのまま移行してコミュニティ・スクールの形に持っていきたいと思っている。

(根城委員長)

ありがとうございます。他に質問がなければ、各委員から一言ずつお願いします。

(楳内委員)

図書館が休館中でも臨時のサービスがあると聞き安心した。幅広い世代の方々が快適に過ごせる施設に生まれ変わるのを楽しみに待ちたいと思う。

昨年10月に階上町で行なわれた生涯学習研修会に出席した。一関市民活動センターの小野寺センター長が、「地域を活性化させるための繋がりづくり」というテーマで講演をなさった。地域が活性された姿とは、人が繋がり、協力体制が構築されていること。他世代の繋がりを促し、歴史、風土、風習、知識経験、行動力を生み出していく社会郷土が、今こそ必要だと話をされていたのが印象的だった。近所の方々と日常生活の中で少しずつでも関わりを持ちながら、万が一何かあったときに、ずっと支え合える関係を構築しながら過ごしたいと考えるようになった。

(新井谷委員)

所属している未来ネットの活動について。コロナ禍に始まった子ども宅食では、ひとり親家庭などの子どもたちに食材を配布している。県の社協が中心となり始まった活動だが、ただ食品を配るだけでなく、その先にある大変な思いをしている方、相談したい方と繋がるということを目的とし、間口を広げていこうと3年間行ってきた。今年からは、宅食配布と同時に子ども食堂も開催できたので良かった。クリスマスに行ったギビングツリーには、今年は900を越えるオーナメントがあり、それに応えてくださる企業、団体、個人の方の熱い思

いが伝わってきた。

4年ぶりに行う八戸子どもフェスタのチラシについて。三社大祭やえんぶりなど、八戸の文化を子どもたちに伝えていきたいと思っているので、足を運んでいただきたい。

(木村委員)

所属している八戸海洋少年団について。コロナが五類になり、通常の活動に戻るような形で進めている。現在、小学生から高校生まで大体40人の団員がおり、月2回の集会には、半数以上の出席がある。

活動内容は、ロープワークや手旗信号の学習、海では小学生はカヌーを漕いだり、南部山のプールで水泳練習を行ったりしている。本当は6人で漕ぐカッターボートに乗せたいが、小学生が漕ぐには厳しいものがあるので、断念した。

団員募集のチラシを各小学校の3・4年生を中心に配布し、説明会には親子で参加していただいている。現在の悩みは、団員をたくさん集められないということもあるが、指導者の育成である。特に若い指導者に子どもたちと接してもらいたいと思っている。

(川守田委員)

コロナが明け、ようやく自分も学生も自由に動けるようになったと実感している。八戸工業大学は地域連携を掲げているので、皆様にいろいろな形でお世話になると思うので、その際はよろしくお願ひしたい。

私が所属している感性デザイン学部の卒業研究展、卒業制作展が来週土曜日から、土、日、月と3日間にかけて八戸市美術館で行なわれるので、ご覧いただければ非常に嬉しい。

(松本委員)

今年度から図書館や小学校へのお話会活動も通常どおりにできるようになった。図書館の休館にあたってはブックセンターでの会場を確保していただき、会員一同感謝している。お話会の活動は、子どもたちに本やお話の楽しさを伝えることが一番の目的だが、目の前に立った大人が何か面白いことを言うのでは？この人に注目して話を聞いてみようという気持ちを育てたいという思いでもやっている。

今回の会議にあたり事前質問を送ったことで、各部署で丁寧に準備・企画・運営していることが非常に良く分かり、大変勉強になった。

(川村委員)

多くの事業を活用しきれていないところもあり大変申し訳なく思っている。これからも先生方には、是非子ども達に見学させたり、講座を利用してくださいと伝えていきたい。



私からは近況として2つある。コミュニティ・スクールについてだが、これからは学校が地域のために何ができるかという視点を強く持っていかなければと思った。三社大祭に関しては、昨年引き子が30人ほどしかおらず、重い山車を引っ張れないということが起きた。そこで、本校（吹上小学校）では総合学習等で祭りについての勉強を復活させ、引き子を100人ぐらい提供できればと考えている。

もう1つは、働き方改革である。学校の働き方改革は学校だけでは収まらず、いろいろな機関との調整が生じる。例えば、児童の下校時刻を早めると、児童館や仲良レクラブの開始時間が早まり、そこで働く方の勤務時間が長くなるため人員確保が必要となる。また下校時刻によっては、保護者が交通安全指導をできない可能性もあり、見守りの問題も生じている。それらの解決のために、学校が町内会や振興会等に顔を出して、情報を集めてお願いをすることが大事だと思っている。また愛好会、特に文化部が指導者を見つけられないことも問題となっており、合唱や吹奏楽を教えてくれる方、専門性を持っている方をどのように紹介してもらえるかが非常に大事だと思う。

（竹花委員）

市教委から学校に様々な案内の通知があり、学校教育以外の支援も手厚いことに感謝している。しかし学校でなかなかそれらを活用しきれてない。来年度以降は、いろいろと使っていきたいと思っている。

今年度、教育委員会の様々な事業の変化がスピードアップしていると強く感じている。コミュニティ・スクールも来年度から導入ということで、戸惑っている校長も多いと思う。まだイメージが持てない校長もいると思われるので、また丁寧にやって頂ければありがたい。

最後は成人式についてだが、今のやり方も素晴らしいと思うが、かつてのふれあいタイム（卒業した中学校ごとに当時の先生方や友達と交流する場）は、意義があったと思っている。公会堂では収容人数の関係でできないと思うし、やはり体育館よりも公会堂のほうが雰囲気も違うと感じるので、どちらがいいとは一概に言えないが……。今後、新成人の方々と一緒に話し合っ決めていくとは思いますが、検討いただければありがたい。

（富岡委員）

自分の子どもが2人海洋少年団にお世話になり、とても素晴らしい活動をされていると思っていた。現在、子ども達を取り巻く環境がどんどん変わっており、言われたとおりやれば何とかなったものが、協力して話し合っやっていかなければならない世の中になった。親側の熱意や関心が足りないと、途端に様々なものが失われてしまう。親の意識を変えて、自分たちでやらないとどうにもならないと訴えていかなければと思った。

スピードスケートの国際大会について。大会に参加した選手のコメントで「八戸がどんな

町かよくわからない」とあったので、多言語での八戸の文化発信が必要だと感じた。

(根城委員長)

小さな子どもや外国籍の方は、コミュニケーションを取ることがなかなか難しいと思われるので、声なき声を聞きながら私たちはやっていかなければならないと感じた。

子どもたちの放課後の居場所について。誰にでも第3の居場所があり、家庭、職場(学校)の他に、もう1つの場所(=自分の原点となりうる場所)に帰りながら、自分をまた取り戻して次も頑張ろうとしている。だから、図書館のような機能はとても大切で、3月から7月の休みが残念だと思った。

社会教育は非常に幅広く奥深い。八戸市民が住んで良かったと思える町にしていれば、大変ありがたいと思っている。